エルヴィーラ・ルオッコの

アルファ・ロメオ・ストーリー

ストーリー＃４

エトナ火山にて、まさに「太陽」の横で
写真に納まるルオッコさん

太陽の下では彼女がいつだって一番美しい

彼女の最初のヴァージョンはアルファ・ロメオ　スパイダー ”デュエット”で、そのボデーワークデザインはピニンファリーナが担当し、1966 年 3 月のジュネーヴ・モーター・ショー期間中に 1570cc 4 シリンダーエンジンを搭載してデビューしました。後にそのスピンドル形状ゆえに”オッソ・ディ・セッピア（イカ骨）”と呼ばれることになりましたが、ショーではシンプルに “Spider 1600”と掲げられた彼女の正式名称は世界中のアルフィスタによる公募で決定されると発表されました。投票はアルファ・ロメオ・ディーラーで受け付けられ、締め切りの 3 月 10 日にはトータル 14 万 501 通、海外から 1 万 5 千通が寄せられました。それぞれの投票用紙にはこのゴージャスな彼女のための名前が書かれていました。寄せられた提案の中にはオランダのベルナルド王子といったＶＩＰのものも含まれていましたが、イタリア、ブレシアのグイドバルド・トゥリオンフィ氏の案が採用され、ジュゼッペ・ルラーギ代表から賞としてそのスパイダーのキーが手渡されました。しかしながら、この”デュエット”という名称は残念なことに製菓メーカーの Pavesi からクレームを受けることになります。その菓子製品の中にちょうど”デュエット”という名のクリームをビスケットでサンドした製品があり、すでに市場に出回っていたのでした。

当時のアルファ・ロメオの渉外担当のカミッロ・マルケッティ博士と彼のピニンファリーナとの窓口となったジョルジョ・コロンボ博士はトリエステのサン・マルコの造船所で製造され、出航を待つラファエッロ・スーパーライナーでクルーズする企画を立てました。クルーズの出航は 5 月 11 日で、大西洋を 27 ノットで進むあいだ、乗客はクルーザーのリド・デッキに出て楽しみ、ニューヨークのフィンメッカーニカ社企画のイタリア製品のプロモーションで展示される 3 台のスパイダーはクルーザーの上で、まるでコースにいるようでした。途中クルーザーは、映画祭が開かれているカンヌに立ち寄ると、その日常離れした登場の仕方に魅了されたヴィットーリオ・ガスマンやロゼッラ・フォークといった多くの俳優たちや、レンツィーノ・アヴァンツィ監督、（最初の女性レーシングドライバーのひとりである）マリア・アントニエッタ・アヴァンツォ男爵夫人らに大歓迎を受けました。彼らはデッキに駆け上がり、その新しいクルマの横でポーズをとってフォトセッションを楽しみました。このように彼女はアメリカに上陸を果たしたわけですが、彼女を有名にしたのはダスティン・ホフマンの有名な映画「卒業」でした。

ダスティン・ホフマンと共演した映画「卒業」から

2 年後、排気量が 1779cc までアップすると、1750 Spider Veloce （1750 スパイダー・ヴェローチェ）と改名されるとともに、フューエルインジェクションシステムの採用とライティングシステムをレギュレーションに適合させ

てＵＳＡ市場向けスペックを備えた最初のモデルとなりました。同じ 1968 年に 1290cc エンジン、プレキシガラス・プロテクションのないヘッドランプを搭載した第 2 ヴァージョンが登場し、その 2 年後にはテールをカットオフしたコーダ・トロンカ・ボデーが用いられるようになりました。1971 年にはエンジン排気量が 1962cc まで拡大されると、2000 Spider veloce （2000 スパイダー・ヴェローチェ）と改名され、アルファが撤退する 1994 年までＵＳＡ市場に投入され続けました。ＵＳＡモデルの中でも記憶に残るのは、「Graduate」「Quadrifoglio」「Veloce (1986-1989)」の３つの装備のモデルと、1994 年 1 月のスペシャルＣＥ（Commemorative Edition: 最終記念）ヴァージョンでした。1972 年に 1750cc エンジンが消えて、新たな 1.6 リッターエンジンが搭載されるようになり、Spider Junior 1300、Spider 1600、Spider Veloce 2000 のラインナップとなりました。Spider Junior 1300 は 1981 年に生産を終えました。1983 年にはボデーとインテリアのリスタイリングが施され、青とベージュの texalfa インテリアそして、オプションで本革インテリアを選択可能になりました。すべてのモデルのプレキシガラス・プロテクションはなくなり、人工柔軟素材の目を引くスポイラーが装着されるようになりましたが、普通であれば、豪華さ、スピード、ドライバビリティー、ロードホールディング性能向上を追及してエンジンやメカニカルにモディファイをして人々を熱狂させるのが常ではありましたが、実質的には何もモディファイされることはありませんでした。

デュエット III シリーズのスケッチ

1990 年、ニュー・スパイダー USA エディションが 1 月にはデトロイトおよび L.A. のモーターショウで発表され、3 月にはジュネーヴ・モーターショウで ヨーロッパ・エディションも発表されました。

クルマを移動手段としてだけでなく、喜びの道具、楽しむ道具として考えるドライバーにとっては、このスパイダーはどのヴァージョンをとってみてもそのパフォーマンスとその心地よいフォルムのエレガンスにおいて最高のクルマであり、歴代のすべてのアルファ・ロメオ車に見出すことができるイメージなのです。

では、この短いデュエットのヴァージョンをめぐる旅を 105 と 115 型シャシー番号（VIN）とカラー・レンジに関する資料を添えて締めくくることにします。

スパイダー・シャシー・ナンバリング

Spider 1.6 duetto 1966

Avorio (アイボリー)

Bianco Farina (ファリーナ・ホワイト)

Rosso Farina (ファリーナ・レッド)

Blu medio (ミッド・ダーク・ブルー)

Celeste (ブルー)

Verde inglese (イングリッシュ・グリーン)

Grigio Grafite (グラファイト・グレー)

1750 Spider Veloce 1967-1971

Bianco Farina (ファリーナ・ホワイト)

Avorio (アイボリー)

Celeste (ブルー)

Blu medio (ミッド・ダーク・ブルー)

Rosso Farina (ファリーナ・レッド)

Verde inglese (イングリッシュ・グリーン)

Grigio chiaro met.* (メタル・ライト・グレー)

Nero (ブラック)

*** 1969 年 7 月まで**

Spider 1.3 Junior 1968-1973

Bianco Farina (ファリーナ・ホワイト)

Avorio (アイボリー)

Celeste (ブルー)

Blu medio (ミッド・ダーク・ブルー)

Rosso Farina (ファリーナ・レッド)

Verde inglese (イングリッシュ・グリーン)

Grigio chiaro met.* (メタル・ライト・グレー)

Nero (ブラック)

Giallo prototipo** (プロトタイプ・イエロー)

Grigio indaco** (インディゴ・グレー)

*** 1969 年 7 月まで**

**** 1972 年 11 月より**

2000 Spider Veloce 1970-1977

Rosso Italia (イタリアン・レッド)

Verde inglese (イングリッシュ・グリーン)

Grigio indaco* (インディゴ・グレー)

Nero (ブラック)

Avorio (アイボリー)

Grigio chiaro met. (メタル・ライト・グレー)

Giallo prototipo (プロトタイプ・イエロー)

Blu (ブルー)

Bianco Farina (ファリーナ・ホワイト)

*** dressing suppressed in September 1976**

Spider 1.6 / 2.0 1980-1983

Rosso Alfa (アルファ・レッド)

Avorio (アイボリー)

Nero met. (メタル・ブラック)

Grigio chiaro met. (メタル・ライト・グレー)

Verde acqua met. (メタル・ウォーター・グリーン)

Spider Q.V. 1.6/2.0 1986

Q.V.: rosso (レッド) および

grigio met. (メタル・グリーン)

2.0: bianco (ホワイト), rosso (レッド), nero (ブラック)

および blu medio met. (メタル・ミッド・ダーク・ブルー)

Spider new generation 1990

Rosso (レッド)

Grigio chiaro met. (メタル・ライト・グレー)

オプション:

ボディー同色ハードトップ

パーシャル・レザー・インテリア **(2.0** ヴァージョンのみ**)**

本革巻きステアリング・ホイール

Elvira Ruocco

コモ湖にてデュエットに寄り添うルオッコさん
（祖父さまのクルマだったそうです）

Translated by Chico147 (kimihiko.aoyama@alfasport.net)